

高等部教育目標	
イエス・キリストを通して、人と世界に仕える使命感と実力を養い、豊かな心と真摯な態度を備えた人格を培う	
探究型カリキュラム教育/学習目標	
SDGs の達成を目指し、Mastery for Service を体現する世界市民の一員として、国内外の社会に自ら関わり貢献できる力を育成する/身につける	
探究型カリキュラムにおける 5 つの学びの方針 Five Principles for Learning	
1. 自分事として <オーナーシップ/一人称>	2. 社会/実践を通して <PBL 型/アクション>
3. 知識を大事に <自ら得る知識/高める関心>	4. コミュニケーションを通して <自分/他者のやりとり>
5. 生徒・教員が共に <共に探究する関係性>	
上位学習目標	
【知識・技能】	
<ul style="list-style-type: none"> 自分が関心のある社会的課題の内容について、自分の言葉で説明することができる 社会的課題に取り組んでいる団体、組織を訪れてフィールドスタディを実施することができる 	
【思考力・判断力・表現力】	
<ul style="list-style-type: none"> 自分が関心のある社会的課題について他者に自らの意見を伝える事ができる 自分が関心のある社会的課題について調べ、その解決方法を考案することができる 	
【学びに向かう力・人間性】	
<ul style="list-style-type: none"> 主体性をもって、粘り強く学習課題に取り組もうとしている。 社会課題を自分事とし、社会に参画・貢献する姿勢を持とうとしている。 	
下位学習目標	
【知識・技能】	
<ol style="list-style-type: none"> 自分が関心のある社会課題の内容について、自分の言葉で説明することができる 社会課題に取り組んでいる団体や組織を訪れてフィールドワークを実施することができる データや資料を適切に使って、効果的なプレゼンテーションを行うことができる 	
【思考力・判断力・表現力】	
<ol style="list-style-type: none"> 自分が関心のある社会課題について、他者に自らの意見を伝えることができる 自分が関心のある社会課題について調べ、その解決方法を提示することができる 	
【学びに向かう力・人間性】	
<ol style="list-style-type: none"> 数ある社会的課題の中から、自分自身がより理解を深め、課題解決をしたいと思うことができるものをみつけようとしている 社会課題と向き合う中で、その課題を学ぶことが自分自身の人生においてどのような意味を持つのか関連付けようとしている 社会的課題に向き合う中で、社会的・文化的・歴史的な構造と人為との関係について考察しようとしている 	

授業日	6/12(水)	1 学期授業回数	5 回目 / 全 7 回
本時 学習目標	主なターゲット【知識・技能】① 【思考力・判断力・表現力】①【学びに向かう力・人間性】①② 本時の具体的な目標 ・社会課題2について、集めた情報をもとにインタビュー調査の項目を決めることができる。		
時間 授業内容	0	復習 前回授業「事実論題・価値論題・政策論題の分類」に対するフィードバック	
	10	復習 前回授業『兵庫県は「ラケーション」を導入するべきであろうか』対話型論証モデル フィードバック Group Work① 情報記録カード① 今井悠介『体験格差』講談社現代新書. pp.17-19. 「体験はなぜ重要なのか」情報を読み取り、考察・分析を加える 情報記録カード② 今井悠介『体験格差』講談社現代新書. pp.26-30. 「体験ゼロの子どもの割合」情報を読み取り、考察・分析を加える 情報記録カード③ 今井悠介『体験格差』講談社現代新書. pp.41-46. 「放課後の体験の参加率」情報を読み取り、考察・分析を加える 情報記録カード④ 今井悠介『体験格差』講談社現代新書. pp.63-64. 「旅行の格差」情報を読み取り、考察・分析を加える	
	40	講義① 質的データと量的データの違い 講義② インタビュー調査の流れ 情報記録カード⑤ 今井悠介『体験格差』講談社現代新書. pp.182-183. を読む。 「ハロカル」の紹介 講義③ インタビュー調査の方法 ～インタビューガイド作成の要点～	
	50	Group Work① インタビューガイドの作成	
評価方法	① 質的データと量的データの違いを理解し、インタビュー調査実施の目的を述べることができる。 ② テーマ「ラケーション」と「体験格差」を踏まえ、インタビューガイドを作成できる。		
宿題指示	① インタビューガイドを完成させ、総合司会者は質問内容を整理する。 ② インタビューにむけ、公益財団法人チャンスフォーチャイルドレンの活動について事前に情報を収集しておく。		